



6月議会

安江市議の一般質問

日本共産党の安江ゆう子市議は6月定例会で福島診療所の過去の不正問題、難病患者にもわくわく・お出かけ券、福祉医療費の支給、笛吹ダムについて一般質問しました。

福島診療所の薬剤購入価 市は徹底して調査を

問題の発端

市立福島診療所の所長（当時）から、次のような告発がありました。

「前所長の頃診療所で購入していたジェネリック薬剤の値段が高いのではないか。通常、ジェネリック薬剤の納入価は薬価の50%前後です。ところが前所長は、熊本の特定の卸問屋・永代から薬価の90%の価格で購入していました。つまり、薬価100円の薬を50円で仕入れ可能にも関わらず、90%95円で仕入れていました。安く買える薬をわざと高い値段で購入していたのです。」

本来、薬価と仕入れた薬の値段の差額は、診療所の収入として歳入に組み込まれるべき

きものです。前所長の頃の契約は、入札などが行われた形跡はありませんでした。薬を高い値段で購入し、診療所や市に対して損失を与え、市民の血税が失われていたのでは

5年前の調査内容を示す ことが出来ず

安江 平成26年5月に前所長の問題点を指摘されたときに、誰がどのような調査をされましたか。

副市長 前所長の時代に医薬材料費が高いという指摘が

前市長に寄せられたのはその通りです。それを受け、平成27年1月に前市長から調査の指示が出ています。平成27年1月に総務課の職員が熊本に行きましたが、すでに廃業し

薬の納入価が高かったことを認める

安江 前所長の時の薬剤の納入価は調べられましたか。薬価の何%が納入価でしたか。

健康ほけん課長 薬価と納入価の差額についての調査までは行っておりません。

安江 この問題は、薬価と納入価の関係です。納入価は薬価の何%だったか調べていない事はおかしい。

「告発した所長は、これまで市に対してこれらの問題点を指摘してきたが何の説明もされなかったとの事でした。」

「前所長は、これまで市に対してこれらの問題点を指摘してきたが何の説明もされなかったとの事でした。」

副市長は卸問屋・永代のある熊本へ職員が調査に行ったことを明らかにしただけで、それ以外にどのような調査をしたかは示さず、ただ問題が無かったと答弁しました。

副市長 薬の納入価格は、通常の薬は競争見積もりをやっていたので、一番安い業者と契約している。ジェネリック薬品については、当時ジェネリック医薬品を扱っている所が身近に無かったので、1業者と随意契約でやっています。その為競争見積もりよりは若干高くなっていると感じ



福島診療所